

第16回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

議事要旨

1. 日時：平成30年7月9日（月）13:00～15:00

2. 場所：国立情報学研究所 12階会議室

3. 出席者：

（委員館）

鈴木学術情報部長（筑波大学附属図書館）、熊野館長、高橋事務部長（以上、東京大学附属図書館）、三浦センター長、河西学務・教務部学術情報課長（以上、横浜市立大学学術情報センター）、沼倉図書館長（大阪府立大学学術情報センター）、風間事務長（慶應義塾大学メディアセンター本部）、深澤館長、荘司事務部長（以上、早稲田大学図書館）、相澤所長代行、江川学術基盤推進部次長（以上、国立情報学研究所）

（陪席）

市古事務長・大学図書館コンソーシアム連合運営委員会委員長（慶應義塾大学三田メディアセンター）、岡部学術情報部長・オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会委員長（新潟大学附属図書館）、大園学術基盤整備室大学図書館係長、浅井研修生（以上、文部科学省研究振興局）、森総務課長、細川情報管理課長（以上、東京大学附属図書館）、石井学務・教務部学術情報課学術情報担当係長、海浦職員、宍倉職員（以上、横浜市立大学学術情報センター）、松本課長（慶應義塾大学メディアセンター本部）、本間総務課長（早稲田大学図書館）、溝口総務部長、樋口学術基盤課長、小野学術コンテンツ課長、平田図書館連携・協力室長、大向准教授、吉田学術コンテンツ課副課長、服部学術コンテンツ課支援チーム係長、菅原学術コンテンツ課支援チーム係長、片岡学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長、上野学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長、新妻学術コンテンツ課研究成果整備チーム係長、船山図書館連携・協力室係長（以上、国立情報学研究所）

4. 議事：

（報告事項）

（1）前回議事要旨案について

横浜市立大学・三浦委員長より、前回議事要旨は既に確定済みである旨の確認があった。

（2）大学図書館コンソーシアム（JUSTICE）の活動について

国立情報学研究所（以下、NII）・平田室長より、資料 2 に基づいて報告があった。また、JUSTICE への事務局員派遣に関わる支援検討について、私立大学図書館協会に依頼を行ったが、同協会の常任幹事会の審議において支援は難しい状況にあり、2018 年 8 月開催の東西合同役員会で最終結論が出されるとの報告があった。

(3) これからの学術情報システム構築検討委員会の活動について

NII・小野課長より、資料 3 に基づいて報告があった。

(4) オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）の活動について

新潟大学・岡部部長より資料 4 に基づいて報告があり、以下の意見交換があった。

- 国際会議への派遣について、予算措置はどうなっているのか。
 - 予算は JPCOAR の経費から支出される。昨年度実績で 125 万円となり、今年度も 100 万円程度計上している。
- 一年間の派遣予定はどのようになっているのか。
 - COAR Annual Meeting（2018 年 5 月 14 日～18 日）と Japan Open Science Summit 2018（2018 年 6 月 18 日～19 日）に加え、ETD 2018 Taiwan（2018 年 9 月 26 日～28 日）を派遣決定しているほか、あと 1 回程度、国際会議への派遣を予定している。

(5) 国立情報学研究所の最近の動向

NII・小野課長より資料 5 に基づき報告があり、NII・相澤所長代行より以下の補足発言があった。

- NII として、ステークホルダーが増えたと認識している。その一方で、ユーザー像には変わりがないとも考えているが、サービス対象が掴みづらくなっている現状があるので、要望等があればぜひ聞かせてほしい。

また、以下の意見交換があった。

- SCOAP³ の拠出額不足について、参加館からの拠出を依頼しているとのことだが、どの程度見込めるのか。また、賄えない場合に、参加館からの拠出額の増額や、その他次善の策は考えているのか。
 - 全額賄うことは難しいと考えている。しかし、参加館ごとの拠出額の増額は現時点では考えていない。高エネルギー物理分野全体の学協会の協力も得ながら、少しでも不足分の充足を目指す方向で検討している。
 - 「CERN から深い憂慮が示された」とあるが、1・2年のうちに充足したいというほど深刻なものか。また、充足が困難な場合どうするのか。

- 深刻にはとらえているが、強制的に取り立てるということではなく、充足する努力を行っていく。
- SCOAP³の拠出金をなぜ図書館が支払わなければならないのかという前提について、もっと議論すべきではないのか。図書館ではなく、学協会や各大学の研究をプロモートする部署が支払うべきなのではないか。
 - SCOAP³は対象誌の雑誌購読料を振り替えることにより、対象誌をオープンアクセス化するという仕組みであるため、図書館の支出となっている。
 - 仕組みからすればその通りだが、オープンアクセス誌への投稿料すべてが対象ではなく、中途半端な立ち位置に見える。
 - NIIからはカウンターパートとして図書館にお願いしているが、図書館から研究推進を担当する部署にも依頼することは難しいものなのか。
 - 依頼するべきだと思うが、現状だと研究成果の発表と見るか、購読料と見るかの理解が非常に曖昧に感じられて判断が難しい。
 - 今回の拠出依頼については、図書館だけでなく、該当する大学長宛にも依頼する予定となっているので、大学全体の問題と認識していただきたいと考えている。
- SCOAP³について、フェーズ3に向けての動きはあるのか。
 - SCOAP³運営委員会で議論されているが、プロジェクトそのものは続けていくことは確かで、対象を広げていく検討が行われている。
- RDM トレーニングツール教材について、NIIのLMSに教材を載せた上で、JMOOCにリンクを貼ってはどうか。
 - 秋以降に公開するコンテンツについては、NII独自で開発しているオンライン教材のプラットフォームを使って公開する予定で、受講に関し何らかの認定制度と合わせた形を取りたいと考えている。大学でもそういった教材を修了した人材を活用できる仕組みに繋がりたいと考えているので、取得したスキルを活用できる環境を各機関でも作っていただきたいと考えている。

(6) 国公立大学図書館協力委員会の最近の動向

横浜市立大学・河西課長より資料6に基づき報告があった。

(7) その他

特になし。

以上